

2も作だ 人生は!!

公式サイト日本語版制作
河上和文さん(57)

モーツァルト、フルネームで言えばウォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791年)。昨年、生誕250周年の記念行事が世界各地で行われた。芸術史上最高の天才と言われる作曲家だけに、ときとして音楽を楽しむという域を超え人々の生活にかかわることがある。ここに登場願った河上和文さん(五七)＝京都府京田辺市在住、マーケティングサイエンス(株)経営＝も、五十路を迎えたころからモーツァルトに心を奪われ、今や人生最大のテーマになった。

愛あり、収益なし

北側の窓の、視線の一番先に比叡山を望む河上さん宅(京田辺市)2階の書斎は、本やCDなどモーツァルトの資料で埋まり、オーディオ装置がデンと構えている。同じ曲のCDでもモーツァルト生存時代の古楽器で演奏したものと、現代の楽器では、曲のイメージまで違って聞こえた。抜き出した本には、複製されたものだが、モーツァルト手書きの楽譜があった。我々が文章を書くように作曲したと思われる。文字が音符で、文章が曲だ。相当な速さで書いたという。清書でもしたのか、書かれた音符に乱れや大小の不ぞろいは見られず、きちょうめんさを感じさせた。河上さんが現在、モーツァルトについて取り組んでいるのは、オーストリアの生誕の地、ザルツブルクに本部を置く国際モーツァルテウム財団のホームページを日本語に訳す作業で、06年1月にサイトを立ち上げた。

気がつけばモーツァルト



モーツァルトの関連書籍やCDで埋まった自宅でくつろぐ河上さん＝京都府京田辺市(撮影・中辻和良)

会情報、演奏される曲目などのランキング、自分がオーストリア現地の演奏会を訪ねたときの見聞録なども掲載する。もちろん本部、さらに日本協会の承認も得、クレームの処理方法なども取り決めている。

いくら自分の人生でも、未来は自分の力だけで動かせるものではない。自分の力で何とかなること(自力)と、どうにも出来ない世間の動向(他力)が絡み合い、あがく先に見えてくるものが指標になり人を導く。中学生のころから河上さんはクラシック音楽が好きだった。ラジオや小さなプレーヤーで聞いた。ただ、モーツァルトは「ワンノフ・ゼム」であり、現在の「オンリー・ワン」とはほど遠かった。

他方は河上さんの場合、バブルの崩壊と、その後の阪神大震災、さらに大企業の本社が大阪から東京へ移転していったことだった。販売促進を請け負う河上さんの会社は立ち行かなくなる。

小なりといえども事業主であり、雇われの身ではない。先立つものはお金。そのとき巡り合ったのが「中

訂正内容は記者承認済み

訂正

(1段、左より6行目) から下記文書へ訂正
ザルツブルクに本部を置く国際モーツァルテウム財団のホームページを日本語に訳す作業で、同財団が日本語版を開発するにあたっては、日本からのクレーム処理も検討し、日本協会の了解も得た。06年1月には、同時に自身のサイトmozart.jpも立ち上げた。

(2段、右より4行目) から下記文書を削除
もちろん本部、さらに日本協会の承認も得、クレームの処理方法なども取り決めている。

小企業の創造的事業活動を促進する法律」だった。企画が通れば金銭の援助も受けられる。先日亡くなった山田勇(横山ノック)元大阪府知事の認定書を、河上さんは今も保存している。

河上さんの企画は、ずばり「モーツァルト百貨店」。90年過ぎに「モーツァルトの音楽は、なぜか生物を生き生きさせる力がある」と話題になった。トマトやメロン、日本酒から毛髪、頭脳まで。モーツァルトを聞かせると音波が電磁波に変換され、メロディーに特有のたんぱく質を作る云々、というやつだ。

河上さんは学者に面談、音楽療法学会に入り、自らフルート教室にも通って、音楽が作り出す心や体に心地よい商品やサービスの事業化にまい進する。が、結論からいえば、この事業は見送った。新たな状況が別の針路を示したからだ。しかし、モーツァルトに灯った胸の炎は、新たな風に火勢を増す。以下、次回に続

(本宮良)